

岡山県感染症対策委員会（議事要旨）

○日 時 平成23年12月27日（火）16:00～18:00

○場 所 メルパルク岡山 3階 芙蓉

○出席者 委員・臨時委員 17名、事務局 5名（別紙出席者名簿）

〔議題〕（1）岡山県新型インフルエンザ対策行動計画の改定について

原案のとおり承認

【発言概要】

意見なし。

〔議題〕（2）インフルエンザ注意報等の取扱いについて

原案のとおり承認

【発言概要】

（委員）

国のインフルエンザの注意報のレベルは10人になっていると思うが、岡山県では早くから注意を促すということによいか。

（健康推進課長）

国では10人であるが、県独自に5人と定め、早い段階で予防に努めていただくために注意報を発令している。

（会長）

他県の取扱いはどうか。

（事務局）

他県では感染研（国）の取扱いで注意喚起を行っている自治体が多いが、岡山県のように独自に要領を定めて注意報や警報を発令している自治体は少ない。

〔議題〕（3）感染症発生動向調査について

インフルエンザ入院サーベイランスについて説明（報告事項）

【発言概要】

（会長）

インターネット以外の方法で情報は出ていないのか。

（健康推進課長）

患者発生サーベイランスの情報から、5を超えたら注意報、30を超えたら警報を発令、ウイルスサーベイランスでは亜型、薬剤耐性等、学校の臨時休業については全部を、随時、報道発表を行っている。

（委員）

新型インフルエンザの行動計画の改定に併せ、11月に厚労省研修会で話をしてきた。少し重いインフルエンザ肺炎を起こした場合のターゲットは高齢者であることが多い。高齢者の重症インフルエンザをどうやって診療していくかということが重要となってく

る。

H5N1が新たに新型としてパンデミックとなった場合の病原性について、ウイルスを調べると、H5N1とH1N1 pdmは非常に似ており、前回の2009パンデミック対策並にきちんと対応すれば、ある程度コントロールできるのではないかと。

病原性についてすごく強いかという点、そうではないであろう。

小児科の立場として2つのお願いがある。

一つは、重症の子どもが出てきた時トリアージが必要となる。トリアージナースを適宜配置できるようにしていただけないだろうか。

二つ目は、ワクチンの接種に関して、あらかじめ学校単位で接種できるように、自治体で設定しておいていただければ集団接種をすることができる。

厚労省と文科省との調整が必要であろうが、場所を確保しておくことが重要である。

感染症情報センターの充実はいいことではある。

富山で発生したO111については、菌が変異をして病原性が高くなっている。

O111を診断することは難しく、詳しく調べてやっとなので、検査をする側の準備が必要であるのではないかと。

(健康推進課長)

重症患者のトリアージ機能の強化は重要であると認識している。

国が出してくるガイドラインをしっかりと見ながら検討していく。

ガイドラインに基づき体制整備を行う必要があり、来年度の課題であると考えている。

ワクチン接種については、計画にも一部記載しているが、国がワクチン接種の基準を示してくるので、県として検討していきたい。

(委員)

食品を介して、エリアを越えた感染症の対策について、地方衛生研究所としてのレベルを高める必要があると。

他県とのネットワークの構築も課題と考えている。特に中国ブロックの中で連携を深める必要があり、今後検討していきたいと考える。

耐性菌、院内感染も含めて、地衛研の機能を高めていきたいと考えているが、将来的に必要なということであればバックアップをお願いしたい。

(会長)

医療と介護の連携体制がきちんできていないといけない。

老健施設や介護施設入所者で発生した場合、ちょっと不安なところがある。

(健康推進課長)

体制整備を行う際に配慮していかなければならないと考えている。

(事務局)

老健施設等で感染症発生が発生した場合は、保健所へ連絡していただき、細かくフォローを行っている。対応できているので安心してほしい。

(委員)

サーベイランスについて、学校におけるサーベイランスは、患者数・欠席者数の実数を把握するのか。

(事務局)

行動計画の学校サーベイランスは、臨時休業のサーベイランスであり、臨時休業を行った学校の患者数・欠席者数を把握するので、実数ではない。

島根県で行われている学校サーベイランスとは異なる。

(委員)

介護との連携については、岡山市でも行政と連携は行っている。

通常の医療と介護の連携は基盤として進めることは、これを契機に進めていることは大事であると考えている。

介護と通常医療の関わり方について、重要であると感じている。

【議題】(4) 岡山県感染症情報センターについて

岡山県感染症情報センターの活動内容について説明(報告事項)

【発言概要】

(委員)

国の情報では、発生状況と検出状況を併せて見るのは難しい。

感染症情報は、専門家の先生と一般への啓発・情報発信の両面性がある。

(環境保健センター所長)

専門家と一般への情報について、両方とも常時アップしていくのは難しいので、工夫をしていきたい。

(委員)

岡山市も情報センターを設置するよう準備していきたいと考えている。

学校サーベイランス、薬局サーベイランス、診断のサーベイランス等、国が運営している感染症発生動向調査以外の研究事業等のサーベイランスについて、県としてリンクや連携を考えているか。

(健康推進課長)

公に発信するものであるため、公的にシステムとして運営させているものを使っている。

その他のサーベイランスが充実されてきたら検討することも考えられる。

(委員)

県や国がそれぞれ出しているので見方が困る。

リンクをはってもらいたい。

(環境保健センター所長)

厚労省、感染研、岡山市、倉敷市について、リンクをはって見られるようにしている。

(委員)

倉敷市医師会の小児科サーベイランスがあるが、どのような関連をもってやっておられるのか。

医師会の情報と県の情報を合体させてすればよいのではないか。

(委員)

倉敷市医師会のサーベイランスは、素早く情報を出している。

共同で仕事をされたらどうか。

地域の情報が、よく見られる為には、迅速であることが重要である。

(環境保健センター所長)

感染症発生動向調査のシステムで動いているので、地域の情報をそのまま反映させるのは難しい。

そこで重要な情報が発信されているのであれば、情報をリンクさせる等勉強させてもらいたい。

倉敷市医師会のサーベイランスはメンバーだけのものか？

(委員)

小児科医会のものであるが外部の者も見ることにはできる。

(委員)

専門家用と一般用 2つに分けたらどうか

「もっと詳しく」をクリックすればそれ以上の情報が見られるようにする等、分けて記載すればいいのではないか。

(環境保健センター所長)

ウイルス情報についてはリンクをはる等、詳しく解るようにしている。

基本的には行政や専門家に理解してもらおうようにしているが、一般の方にも理解しやすいように、できるだけ難しくならないように心がけている。

また、詳しい情報を知りたい場合には、リンクをはって専門家の方が参照できるように工夫している。

〔議題〕(5) その他

議題なし。

本日の議題の中で、再度、質問・意見について発言を求めた。

【発言概要】

(委員)

新型インフルエンザ対策行動計画について、岡山市等自治体にも意見照会をいただき、それらを反映させた案となっているが、今後、国がガイドラインを出してきたら、詳しい検討をすると考えてよろしいか。

(事務局)

国から今年度中を目途に、各種ガイドラインを出してくると聞いている。

詳しい対応についてはガイドラインにより対応する。

(委員)

詳細なこと以外については、計画に入っているということであれば、サーベイランスについて、症候群サーベイランス等のサーベイランスは計画に入っていない。

重要な情報については、迅速な把握に努めることも必要ではないか。

(健康推進課長)

国の計画に準じた改定を行っている。

必要に応じてマニュアル等の作成も検討する。

(委員)

感染症の流行による危機管理は進めてほしい。

新型インフルエンザなど、感染症が発生し、社会が不安な状況になると偏見や差別が起

こりやすい。

不安にならないためにも、一般にも分かり易い迅速で正確な情報発信をお願いしたい。

(委員)

すばらしいサーベイランスのシステムができています。

本校には留学生がたくさんおり、新型インフルエンザ発生時には、感染源の人が出入りしてどんどん解らなくなる。

留学生については、どのように考えればいいか。

(健康推進課長)

新型インフルエンザ発生時には検疫でしっかりした対応が取られる。

検疫の有効性は状況に応じてだんだん緩めていくこととなる。

また、医療機関では院内感染対策をしっかりやっていただく必要がある。

一つだけの対策だけでは難しいと思われる。

(事務局)

海外の発生状況についても、国とリンクして早期に情報提供をしていく。

大学でも注意喚起や、発生国の状況について留意していただければと思う。

(委員)

委員の発言について、非常に重要なことだと考えている。

感染者へのバッシングが起きないように、重症度をできるだけ早く把握しようとしている。

基本的には今回の国の行動計画の中に組み込まれている。

重要なお指摘だと思う。早くに感染した子どもたちや大人がバッシングを受けないようにしなければいけない。

(会長)

2009年はワクチンが足らなくなって大変な状況であった。

今年もワクチン不足が危惧されていた。

最近、倉敷で流行してきたので、ワクチンが動いていると聞いている。

現在の状況はどうか。

(健康推進課長)

11月頃不足するのではと危惧していたが、現在は安定的に供給される。

対前年比でそれ以上の数量が供給されていると聞いている。

(保健福祉部長)

新型インフルエンザに関しては、未確認の情報であるが、1億3千万人分を国内4社で生産できる体制を、今後、2013年度に1千億円の交付金を出すプランもあるようだ。

すぐではないが、国でも対策をとろうと準備をしているようである。

(委員)

情報提供

先週250人の発熱等による救急外来の内、半分近くがインフルエンザ陽性であった。

小児が多い。倉敷地区では流行期にかかっている。

(環境保健センター所長)

発熱疾患で発疹を伴う場合、リケッチアによる疾患にも気をつけてほしい。

本年、岡山県でツツガムシ病が3例発生している。

福山では、リケッチア疾患（日本紅斑熱）で死亡例も報告されている。

手遅れになる場合は、感冒かインフルエンザと診断され、適切な治療が行われないことが多い。

11月、12月でもツツガムシ病は発生するので、リケッチア疾患を鑑別疾患として念頭においていただきたい。